

長畝ふるさと通信



【2024年10月号】

■ 何とか終わったけれど・・・

10月21日、何とか稲刈り作業が終了しました。9月の台風など雨で刈取中止となった日が10日もあり、平年より一週間以上も遅れてのフィニッシュでした。コンバインの故障が相次ぎ、修理費は倍以上もかかり、そのうちの1台は来期は自由契約となりそうです。

肝心の作柄はというと・・・梅雨の長雨による日照不足、8月の熱帯夜、9月の豪雨など不順な天候により1等米比率は半分程度となりました(皆さんにお届けするおコメは全て1等米ですのでご安心を)。コシヒカリの収穫は9月16日から始めましたが、どうやらその時点が今年の刈取適期だったようで、以降は刈り遅れによる品質低下が顕著に表れていました。普通、コシヒカリの刈取適期の判断基準は出穂後日平均積算温度が1000℃(平均温度22度で45.4日ですから、8月10日に出穂なら9月25日が刈取適期となる)と言われていますが、今年は8月の2/3が熱帯夜だったので予想を大幅に早めていた訳です。地球温暖化は確実にお米適作地を北上させていくことでしょう。またまた頭痛の種が増えました。



■ 稲刈り後の田んぼには無数のトンボが産卵をしにやってきています。今年は暑さのせい「イナゴ類」の出現が少なかったように思います。

■ コメの高値はそうそう続かない…はず

農水省は令和6年産米の生産量が683万トンで、来年6月まで1年間の需要量674万トンを上回ると発表しました。令和のコメ騒動で一時的に需要が伸びたが、長期的な消費減少傾向は変わらないとしているらしい。つまり日本人はこれから益々コメを食べなくなるということか(人口減少は止まらないけど)。今回の騒動でコメ相場が爆上がりした原因は先月号でも述べたように、コメ市場にも民間の介入でようやく競争原理が働いたおかげです。これまでは全農が市場を支配していて卸業者の大半はそこからコメを買っていたのですが、今回のコメ不足で民間が直接コメを買いあさった結果、相場が上がった訳です。農協は今回の仮渡金の加算について「コメの生産コストも上がっており生産者の負担が大きくなっているから、今後も意欲をもって作り続けよう」とマスコミに発表していますが…それならもっと以前から高値で買ってくれても良さそうですが、真実はコメの集荷率が激減し高値で買わざるを得なかったから…でしょ。

おかげでコメの末端価格は前年より60%以上も上がっており、それを負担しているのは消費者の皆さんですから。食料品の値上げは留まることを知らず、家計負担は増すばかり。国会議員さんは最低賃金を時給1500円まで上げると言いますが、いつの事やら。



今月号は言い訳と愚痴ばかりで申し訳ありません。これがコメ百姓の本音です。組合ではできるだけ世間相場に左右されず、お互いの関係を持続させることで細く長く生きていきたいと考えています。トキが集団で田んぼに降りて餌を食べています。「お代はいらねえ、腹いっぱい食っとくれ！」トキにはそう言いますが、みなさんからは相応のご負担をお願い致します。

令和6年産米も「おかわりは自由です」